

中間のまとめ（案）への各委員からの意見・提案

	意見・提案
石川委員	<p>一般論として、新たな地域デビューを迎える時、町会は会員の生活に関するあらゆる活動に携わろうと努力する。NPO等の方々は、目的とする事業一点に集中して関わりを持ち、その結果、町会は広く浅くなりがちで、NPOは狭く深くなってゆくように見える。</p> <p>元気高齢者が地域活動に関わる時は、自分が何をしたいかを決めると良い。何に貢献できるかということ話し合うことで組織に入りやすくなる。同時に町会側も、役員・理事なら運営に関するあらゆることをお願いする・・・という従来からの体質を改めれば受け入れやすいのではないか。</p> <p>町会運営には心のゆとりが必要。肝心なことは、仲間になることであり、仲間として懐の深さも必要だ。照れずに参加すれば、すぐに仲間になれるというのも地縁団体の良さだと思う。町会の活動は、それが終わってお茶の一杯も出さずに「ご苦労さん」の一言で終わってしまうことがほとんどなので、そういう意味でも気軽に参加してもらえれば直ぐに仲間になれると思う。</p> <p>町会の若返りには、団塊の世代の方々の参加が不可欠。</p>
川嶋委員	<p>当時者側の興味のある地域活動の一番が、「文化・スポーツ・レクリエーション活動」に集まるのは、地域活動について情報不足に起因する点が大いではないか。</p> <p>地域活動というと、町会や自治会というコミュニティに限定されがち。例えば、高齢者介護・福祉、清掃・環境保護といった活動は、こうした既存のコミュニティが取り組んでいない限りなかなか元気高齢者には情報としては伝わりにくい。</p> <p>以前紹介したオン・デマンド・コミュニティにも、いわゆる元気高齢者と定義されている年齢の方は、様々な分野で積極的に活動している。</p> <p>今後地域で活動してもらいたい元気高齢者に対して、地域貢献・社会貢献というのは、非常に多様な分野で可能であることを広く知らしめるツールや仕組みが必要。</p>

	意見・提案
西久保 委員	<p>全国老人クラブ連合会でも加入促進運動を展開し、東老連では、練馬、日野、羽村が「仲間づくり活動部門」で表彰されている。今後も会員増強を目指していく。</p> <p>東老連では、地域団体として、市民活動団体と行政当局との連携の中で支援していきたいと考えている。</p> <p>都として、元気シニアの地域活動を支援する場合、組織の持続性、活動スタイル、組織の性格、行政との関係等に留意する必要がある。</p> <p>東老連として、都からの助成により「健康大学」を作り、若手コーディネーターを養成している。</p>
曽根 委員	<p>東京都のレベルからは、「元気高齢者は社会参加をすることで強く期待されている」との宣言を出し、その必要性を訴える。(新聞広告等で意見広告として出稿し、併せてパブリシティを促す。)</p> <p>マッチングコーディネーターの養成が急務であり、「地域活動」についての全ての情報を知るワンストップ相談員とする。(継続的研修とグループ活動が必要。)</p> <p>そのためには、町の中に集う場として「コミュニティカフェ」の存在が必要であり、そこを中心に「情報センター」、「相談センター」として機能させる。</p> <p>また、第二の現役世代を40年間と定めて、有償・無償を問わず「働きたい」思いを充足させる「コミュニティビジネス」(CB)の創出が必要。</p> <p>それも「コミュニティカフェ」がCBの育成をする発信源となると確信し、公的支援を強化する。</p>
真貝 委員	<p>3ページ目の(元気な高齢者)の2番目の表現では、現在、活動意欲の高い高齢者が充足しているように認識されます。現実には逆ではないか。町会、自治会、老人クラブは弱体化して今問題になっているのでは。</p>
吉田 委員	別紙のとおり